

県高校新人駅伝 アベック優勝



2月10日(土)、県高校新人駅伝が小林市－高原町で行われ、男子駅伝部・女子駅伝部がアベック優勝を果たしました。男子は、3区で湯浅仁君(総進1年・木花中出身)がライバル小林高校に1分の差をつけそのまま逃げ切り初優勝となりました！！女子は圧倒的な走りを見せ、大会5連覇となりました！！

創部以来、初の優勝を掲げた男子駅伝部と、成長し続ける女子駅伝部。アベック優勝という初の栄冠を手にすることができました。

日大アベックV

男子初、小林に49秒差



5連覇となるゴールテープを切る宮崎日大の田崎＝小林高前

Wエースが快走

○…5連覇した女子のたがしつかり調整でき宮崎日大は、野崎光と田た」と、納得の様子だった。崎優理のダブルエースが力を発揮した。小林と4区を走った尾籠さや同タイムでたすきを受け香を含めた3人が、1年た2区野崎。1キすぎのころから全国高校駅伝からペースアップすると経験しチームを引っ張る。野崎は「今年はおつ張らん差を上げ、25秒差をつけた。アンカー田とスピードを上げ、トラ崎もこれまでの区間記録でもインターハイに録を2秒上回る快走で出ると、さらなる意欲締めくり」試合が続くを見せた。



3区で小林との差を広げる宮崎日大の湯浅＝J長高原駅前

県高校新人駅伝 駅伝の男子第45回、女子第31回県高校新人大会は10日、小林市・高原町であった。男子(6区間、26区)は特別支援学校合同チームを含む21校、女子(5区間15・5区)も特別支援学校を入れ16校が出場。宮崎日大が男子で初の頂点に立ち、5連覇の女子と合わせ、アベック優勝を飾った。

男子の宮崎日大は、3区で湯浅仁が小林に約1分の差をつける。残り20分5秒の区間を走り逃げ切った。小林の優勝は19回連続で途切れた。3位は都城工。女子の宮崎日大は、4、5区の2年生が、きつちり後続との差を駆け完勝。アンカー田崎優理は21年ぶりの区間新をマークした。2位は小林。3位には都城商が入った。(高橋正一郎)

男子(宮崎日大6分7秒、小林5分18秒、都城商5分34秒) 女子(宮崎日大12分1秒、2区(3・5)野崎光(宮崎日大)11分53秒、2区(2)白晃瑞穂(小林)6分3秒、4区(3)尾籠さや(宮崎日大)10分38秒、5区(3)田崎優理(宮崎日大)9分59秒、区間新

男子(宮崎日大) 8分42秒、3区(5)湯浅仁(宮崎日大)15分48秒、4区(5)地巻斗(小林)15分2秒、5区(3)九嶋真輝(小林)9分31秒、6区(5)佐藤真希(宮崎日大)15分49秒

女子(宮崎日大) 12分1秒、2区(3)野崎光(宮崎日大)11分53秒、2区(2)白晃瑞穂(小林)6分3秒、4区(3)尾籠さや(宮崎日大)10分38秒、5区(3)田崎優理(宮崎日大)9分59秒、区間新

男子(宮崎日大) 8分42秒、1監督(初優勝に)「選手の手自信に繋がったと思いがまだまだ、負けな強い強さを身に付け、全国で戦えるチームをつくりてきたい」

男子小林・畦地貴斗主将(20連覇ならず)「悔しい。県高校駅伝で絶対に勝つよう、この気持ちを忘れず練習する」

男子小林・上原将平監督(2位に終わり)「負けると言えない、この負けが収穫だったと言えよう、全体のレベルを上げたい」

打倒小林で一丸

○…男子の宮崎日大は、前評判の高かった昨秋小林の20連覇を阻み、初の県高校新人駅伝は、小林に優勝。アンカー佐藤航希が3分以上の差をつけられゴールまで待っていた。練習の量や取り組み姿勢、仲間と抱き合って喜んだ。2区を終え1秒差の大接戦。続く3区湯浅仁はこの日故障や病気でペース激しく雨が降りしきる中「最初から突っ込む」と力強い走りを見せた。チームが一つにまとまっていたが「小林に勝つ」と「きつかったが練習を信じて走ることができた」と笑顔で話した。た様子にはなかつた。